



次世代電池を指向する 金属錯体材料の最前線

主催：錯体化学会

日時：2021年12月7日（火）Zoomによるオンライン開催

蓄電システムのための次世代電池材料として、金属イオンの酸化還元能と有機配位子の高い設計性を併せ持つ金属錯体が注目されています。金属錯体を基盤とした電極・電解質材料開発の最前線について、企業・アカデミアの国内第一人者と新進気鋭の若手研究者に紹介していただきます。

大久保 將史（早稲田大学）

「配位子を酸化還元する電池材料：配位子場理論と機械学習」

吉川 浩史（関西学院大学）

「分子および分子集合体の蓄電特性と反応機構解明」

折茂 慎一（東北大学）

「錯体水素化物の蓄電デバイス応用
ーハイドロジェノミクスの視点ー」

吉成 信人（大阪大学）

「水和カリウム伝導を示す金属錯体結晶」

荻原 信宏（豊田中央研究所）

「新規電極材料インターカレーション金属有機構造体」

北川 宏（京都大学）

「固体ナノプロトニクス」

参加登録費

錯体化学会 会員：法人会員 8,000円、正会員 5,000円、
学生会員 1,500円

錯体化学会 非会員：企業所属 20,000円、大学・公共研究機関所属 10,000円、
学生 3,000円

参加申込締切 11月30日（火）、参加費振込締切 12月15日（水）

ウェブサイトは↓ 参加登録は↓

